

2016年11月7日

### 朝礼の話 (2016年11月)

皆さんお早うございます。先週初めから朝晩の気温がぐっと下がってきました。京都市内の樹木もめっきり色づきを増しています。晩秋の気配を一段と感ずるようになりました。暦（二十四節気）の上では今日は立冬となります。市内の紅葉のピークは20日過ぎごろと予想されています。今年も紅葉を楽しむ内外の観光客がたくさん訪れるものと思われま。地元にいる私たちもお休みの日に、または仕事の合間に深まりゆく秋の移ろいを楽しみたいものです。今年も余すところ2ヶ月足らずとなりました。仕事に、プライベートに遣り残したことはないか自分の周りを点検し、一つずつかたづけていきましょう。

明日（8日）、米国大統領選挙が行われます。直近の世論調査では、民主党のヒラリー・クリントン候補と共和党のドナルド・トランプ候補の支持率は拮抗しています。当落を決める選挙人の獲得予測もトランプ氏が猛烈に追いついてクリントン氏の優勢は崩れ始めています。両者の優劣は僅差となり接戦のまま明日の投票日を迎えそうです。米国の大統領は1期4年で2期まで再選可能となっています。大統領選挙は4年毎に実施され、投票日は11月の第一月曜日の次の火曜日と定められています。18歳以上の有権者が大統領候補に投票しますが、形式上は選挙人を選ぶ間接選挙となっています。選挙人の総数は51州・地区で538人おり、人口に応じて割り当てられています。大半の州は1票でも多く得票した候補がその州の選挙人をすべて獲得する総取り方式です。選挙人総数538人の過半数270人以上を獲得した候補が当選するルールとなっています。大統領選挙と同時に連邦議会上下両院選挙も実施されます。上院は定員100名で任期6年、2年毎に3分の1ずつ改選されます。下院は定員435名で任期2年、全員改選されます。51州・地区の中で両候補の支持率が接近する10~13の激戦州と言われている州の選挙人の獲得如何で勝敗が決まります。伝統的に特定政党が強い州がたくさんあり、その政党の候補者が変わっても特定の政党候補に投票されるため、おおよそその州では選挙人の獲得見込はほぼ選挙前に計算できることとなります。今回の選挙では10月上旬に発覚したトランプ氏の女性蔑視発言が追い風となりクリントン氏が世論調査の支持率で10ポイント以上トランプ氏を引き離していましたが、10月28日に米連邦捜査局（FBI）がクリントン氏の国務長官時代の私用メール問題を再び捜査すると発表したため、両氏の支持率は一気に縮まりました。当落を決める選挙人の獲得予測でもクリントン氏の優位の状況が崩れ始めたといわれています。専門家の見方は依然としてクリントン氏優位にありますが、世論調査に表れないトランプ氏の隠れ支持者がどれほど選挙結果に影響をあたえるのかということも指摘されています。トランプ大統領誕生に警戒感を持つ金融市場は選挙目前になり、円高・株安に大きく振れてきました。選挙結果が日米の外交、通商、安全保障などさまざまな面で大きな影響を与えることは必ずです。為替や株式市場などの動向を通じて我々の景気にも大いに影響を与えかねません。選挙結果とその後の市場の動きに十分な注意を払う必要があります。以上